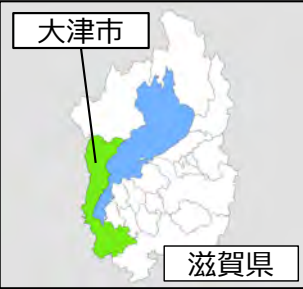


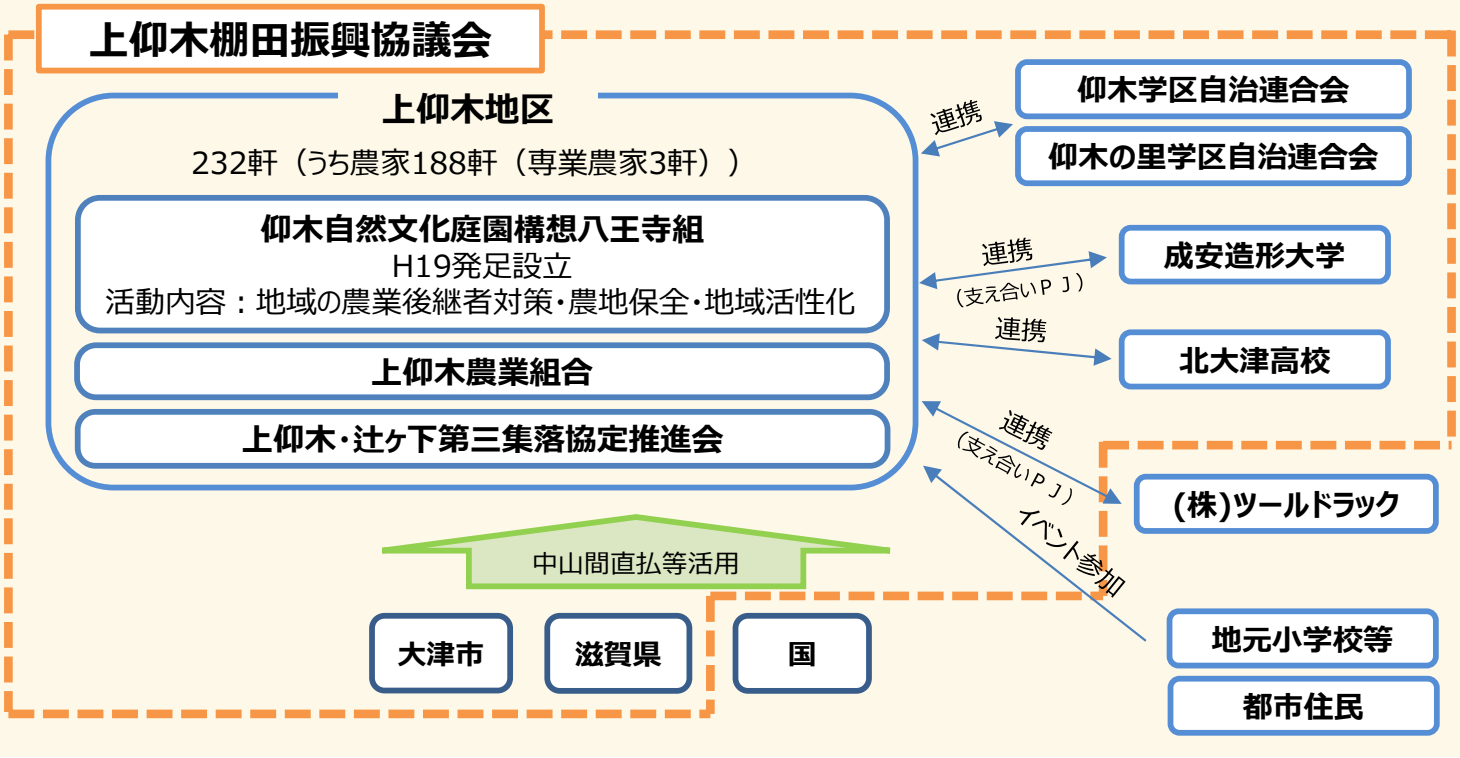
○棚田ボランティアや棚田オーナー制度を活用した棚田保全活動およびこれらを通じた地域住民と都市住民等との交流により地域活性化を実現。

基本情報



- 棚田の名称 : 仰木の棚田
- 面積 : 187.8ha
- 指定棚田地域 : 旧仰木村
- 認定・表彰実績 :
 - つなぐ棚田遺産認定
 - 近畿農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」選定
 - (仰木自然文化庭園構想八王寺組)

協議会の構成員と体制



活用した関係省庁の事業

- 活用した事業名 : 中山間地域等直接支払制度、しが棚田ボランティア制度、棚田オーナー制度、しがのふるさと支え合いプロジェクト 等
- 活用のポイント : しがのふるさと支え合いプロジェクトによりマッチングした大学・企業とともに棚田保全につながる活動等を実施

コンシェルジュの活用状況

- 協議会からコンシェルジュに相談したこと
上仰木地区では路線バスが廃線となり、大学や高校と連携して活動する中で交通の問題があることから、国交省の補助金や交通系の助成金などで運用できるものはないか相談した。

取組前の地域の状況

・担い手の減少

比較的都市部に近い立地でありながら、高齢化や若年層の流出が進行し、農業の担い手不足が深刻な状況であった。また、狭小な区画が多く、農作業に多大な労力が必要であった。

・農地の荒廃

サル・イノシシ等による獣害が深刻であり、荒廃した農地が増加しつつある状況であった。



棚田地域振興活動計画に基づく 取組内容

土地利用

・担い手の確保

棚田保全活動を中心的な立場で活躍するメンバーを増員し、担い手の確保を図る。

活力づくり

・イベント・体験学習の実施

学校教育での農作業体験学習等の受入を拡大し、豊かな自然環境を活用し、食育や生き物など多面的な教育の機会に貢献する。



北大津高校体験農園

・関係人口の創出

成安造形大学との連携を強化し、学生の学びの一環として米袋作りやポップ作成、棚田米の販路拡大戦略を共同で考案するなどの活動等を通じ、関係人口の増加を図る。

取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

土地利用

・担い手の増加

棚田の保全に中心に取り組む人数が令和2年度に23人であったものを、令和5年度には25人確保した。

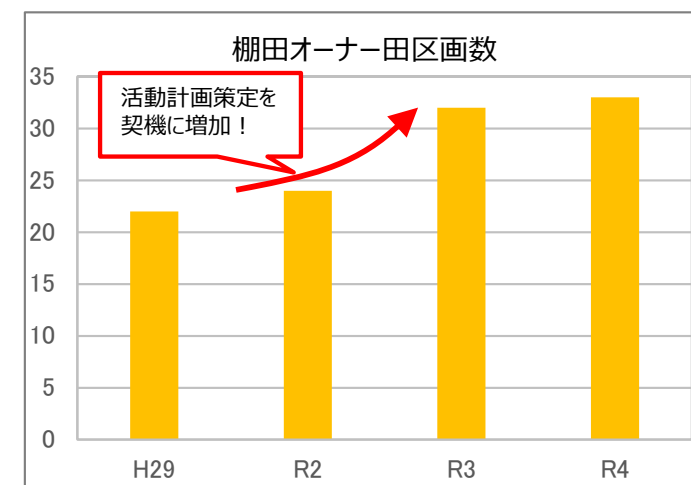
活力づくり

・イベント参加者の増加

農業体験学習が令和2年度に年間4回開催・延べ40人参加であったものを、令和4年度には年間8回開催し、延べ230人の参加を確保した。

・関係人口の増加

成安造形大学のフィールドワークと連携した活動を、令和4年度には7回開催した。また、棚田オーナー制度の登録は、取組開始以降増加している。



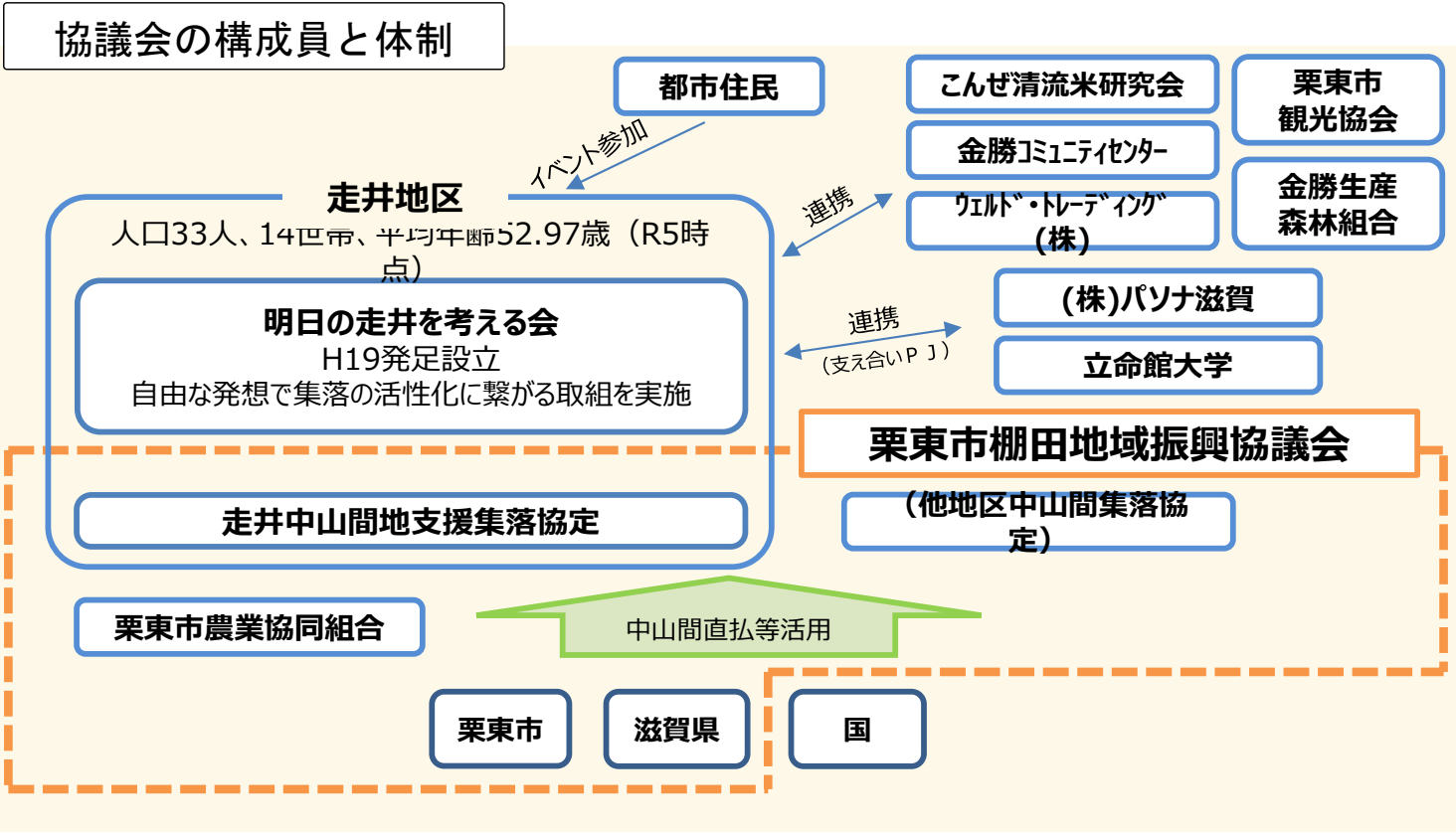
○棚田ボランティアを活用した棚田保全活動、棚田に隣接するアジサイロードの整備、都市農村交流イベントの開催等により、自由な発想で新しいアイデアを採り入れ、集落の活性化を実現。

基本情報

栗東市

滋賀県

- 棚田の名称 : 走井棚田
- 面積 : 10.6ha
- 指定棚田地域 : 旧金勝村
- 認定・表彰実績 :
 - つなぐ棚田遺産認定
 - 豊かなむらづくり全国表彰事業 農林水産大臣賞
 - (明日の走井を考える会)



活用した関係省庁の事業

- 活用した事業名 :
中山間地域等直接支払制度、しが棚田ボランティア制度、しがのふるさと支え合いプロジェクト 他
- 活用のポイント :
しがのふるさと支え合いプロジェクトによりマッチングした大学・企業とともに棚田保全につながる活動等を実施

コンシェルジュの活用状況

- 協議会からコンシェルジュに相談したこと
 - ・ 指定棚田地域の指定申請書や指定棚田地域振興活動計画の内容について（県経由で相談）

取組前の地域の状況

・人口減少、活力不足

高齢化、過疎化が進み、人口が激減していることにより、清掃活動や農地の維持等が困難な状況となっていた。

また、集落に活気が無くなり、団結力が失われつつあり、集落の存続について危機感が募っていた。

・農地の荒廃

獣害の増大（回数・被害の大きさ）により、農地の荒廃、農業離れが進行していた。



棚田地域振興活動計画に基づく

取組内容

土地利用

・耕作放棄の発生防止

中山間地域等直接支払制度の取組、棚田ボランティアの募集により、耕作放棄地の発生を防止する。

活力づくり

・景観作物の栽培

棚田周辺に紫陽花を新たに植栽することで、棚田の魅力の向上を図るとともに、地域の協働の取り組みや交流の機会を高める。



・イベントの実施

無花果、桃、ブルーベリーを中心とした観光農園を立ち上げ、これまで開催してきた収穫祭や農業体験の取組との相乗効果も期待し、来場者の増加を図る。

取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

土地利用

・耕作放棄の発生防止

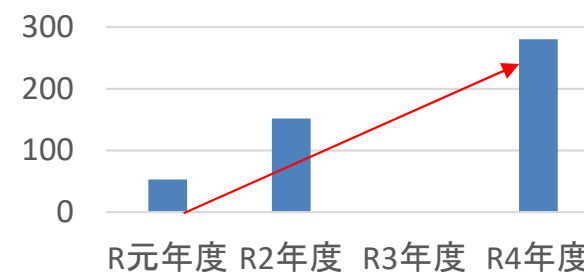
中山間地域等直接支払制度の取組農地について、耕作放棄地のない状態を維持できている。

活力づくり

・イベントの参加者の増加

収穫祭「ハーベスタ・イン走井」の参加者は令和元年度に53人であったところ、令和4年度には280人に増加した。

ハーベスタ・イン走井 参加者数



■ 参加者数

※R3年度はコロナの影響により参加者の募集を行っていない。



○棚田オーナー制度、交流事業、特産品販売等バランス良く実施し、新規定住者の獲得と関係人口の創出を実現！

基本情報



● 棚田の名称 : 毛原の棚田

● 面積 : 5.07ha

● 指定棚田地域 : 旧河守上村地域^{こうもりかみむら}


● 認定・表彰実績

日本の棚田百選(H11)・丹後天橋立大江山国定公園 (19)

京都府景観資産(H20)・重要里地里山(H27)

歴史の道百選 (R元)・つなぐ棚田遺産 (R3)

活用した関係省庁の事業



美しい農村再生支援事業 (H27~H28)


●ソフト事業

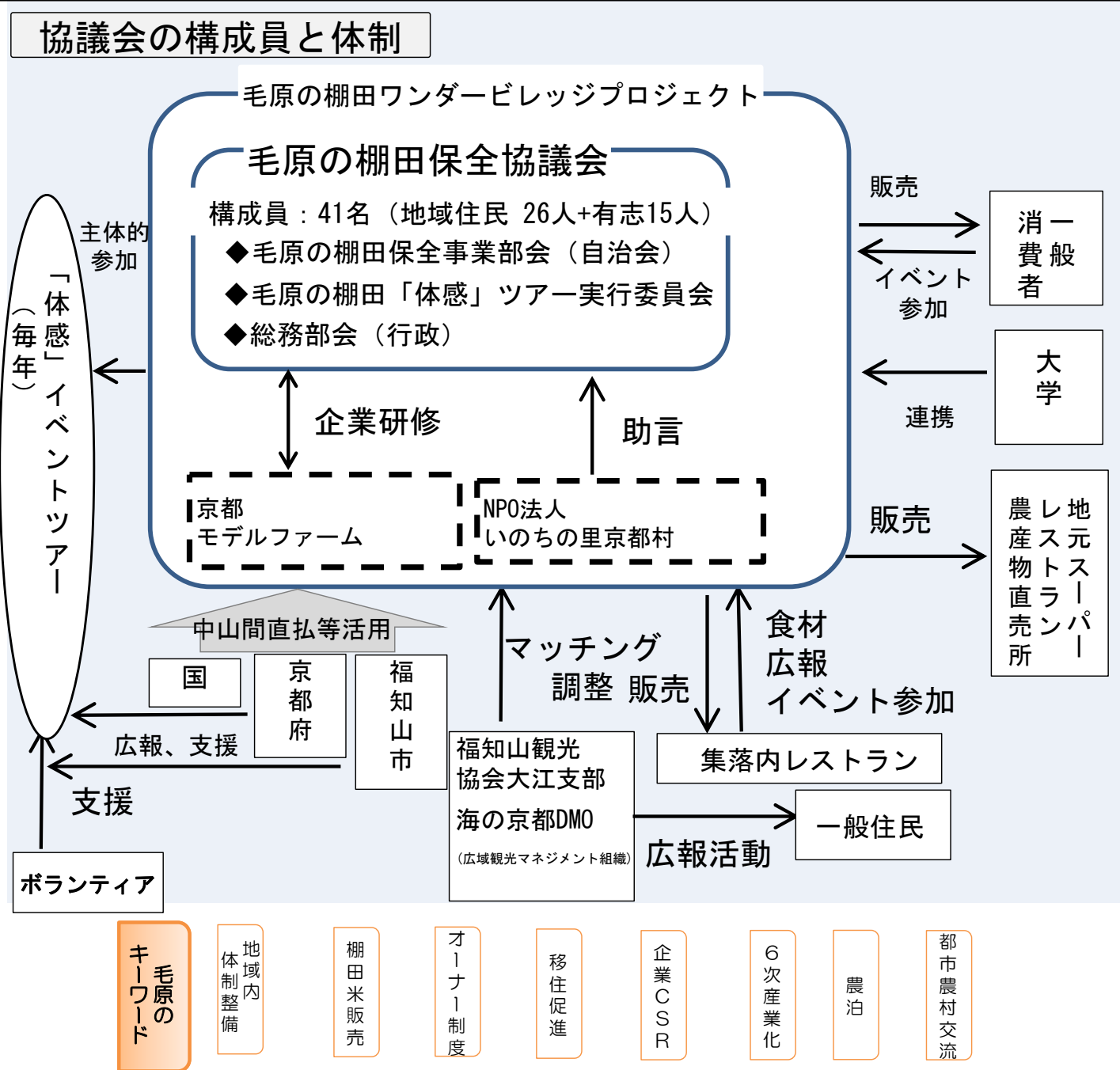
地域住民、行政機関、民間会社、NPOが参加したワークショップを開催し、地域の課題の把握を行い棚田保全マップ、広報パンフレット、ホームページの作成を行った。また、地元特産品を活用した商品開発や、加工品販売や石窯づくりや、石窯を使用しピザづくり体験会を開催し、関係人口の創出を図った

●ハード事業

水路復旧実施 (L=220.2m)

アスファルト舗装 (A=500m2)





取組前の地域の状況

農業者の減少・高齢化が進行

集落内の農地は、狭小な区画で道幅も狭く、水路も土羽のため、機械化が困難で、農作業に多大な労力が必要であるとともに、過疎・高齢化により集落及び、農地を維持することへの不安が広がっていった。



道幅の狭い農道

管理に労力のかかる土羽の水路

ほ場整備の断念

平成2年頃、営農経費を節減するため、ほ場整備の検討を行ったが、ほ場の形状よりほ場整備を実施するより、棚田の形状を活用して、地域の再生を実施することに方針決定された。



美しい棚田の景観を生かした集落づくりに方針転換

棚田地域振興活動計画に基づく 取組内容

土地利用

- ・農産物の供給促進
- ・棚田米の販売量を維持し、棚田米「鬼力の棚田米」ブランドとして、ふるさと納税、イベント販売等の直販を推進する。
- ・環境保全型の有機農業の維持発展を行う。

活力づくり

- ・自然環境の保全・活用
- ・毛原の棚田で都市住民に向けた自然ふれあいイベントを企画し、関係人口の創出を図る。



- ・良好な景観の形成と伝統文化の継承
- ・地域住民の共同活動として景観維持に取り組み、古道の散策や豊作祈願等の祭礼の開催を継続する。

・オーナー制度の充実

棚田エリアオーナー、棚田サポーター、棚田ファンなど保全活動への参加方法を検討し、オーナー制度の充実を図る



棚田「体感」ツアー

取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

土地利用

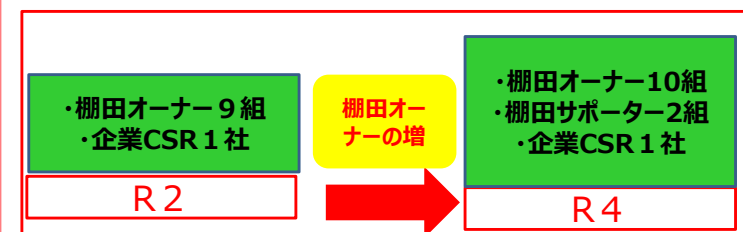
耕作面積の維持

15年間 耕作面積の維持



棚田オーナーの人数の維持

棚田オーナー、棚田サポート隊や企業CSRの受け入れを継続維持



活力づくり

キャンプ等入込客数の増加

棚田でのキャンプによる入込客を増加させる。



食品加工所「毛楽里」での加工品販売量の増



25 棚田を核とした交流拠点づくり -棚田再生で人と時代を繋げる-

【中田の棚田・和歌山県紀美野町】

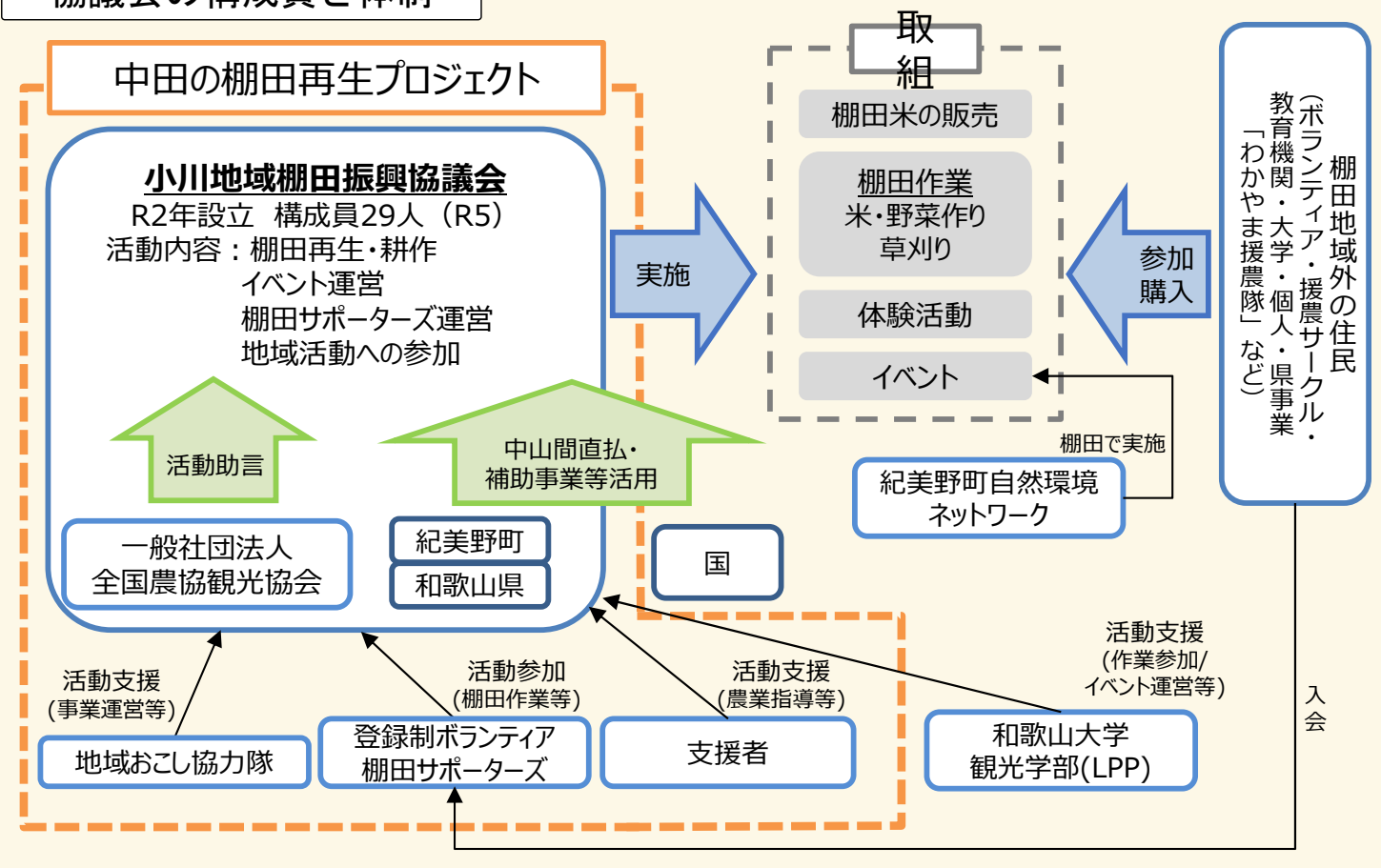
○「美しい棚田の自然と農業文化を次世代に残したい」との思いを持った棚田地域外の人々を中心に、棚田の自然や文化を未来に伝えるため、地域の人々とともに棚田の再生、棚田米の生産やイベントなどの活動に取り組む。

基本情報



- 棚田の名称 : 中田の棚田
- 棚田等の面積 : 10ha(うち棚田9ha)
- 指定棚田地域 : 旧小川村地域
- 認定・表彰実績 :
つなぐ棚田遺産認定
わかやまの美しい棚田・段々畑認定

協議会の構成員と体制



活用した関係省庁の事業

- 農山漁村振興交付金 中山間地農業推進対策
- 中山間地域等直接支払制度 棚田地域振興活動加算
- 地域おこし協力隊

コンシェルジュの活用状況

- 棚田の観光化に関する関連事業の紹介
- 「デジ活」中山間地域認定に係るフォロー



取組前の地域の状況

農業者の高齢化と後継者不足

棚田のある小川地域では、農業者の高齢化と後継者不在により、耕作放棄地が増加していた。特に、棚田内では活動開始(R1年)時点での水稻耕作者は1名のみであり、棚田の大半が耕作放棄地となっていた。



再生前の棚田(R1.5.15撮影)
左側が協議会の管理する棚田。
一部が山化し始めていた。

棚田に新たな価値を

棚田の魅力に惹かれて集まった棚田地域外の住民を中心に、地権者から承諾を得て、草刈り・竹や木々の伐採から活動を開始した。そして、棚田の自然や文化を未来に伝えるために令和2年2月に「小川地域棚田振興協議会」を設立した。



竹の伐採・粉碎作業

棚田地域振興活動計画に基づく

取組内容

土地利用

・棚田の復旧

協議会のほか、地域おこし協力隊や登録制ボランティア「棚田サポーターズ」、プロジェクト支援者により、耕作放棄された棚田を再生している。



再生後の棚田(R5.6.16撮影)

活かづくり

・広報活動

地域おこし協力隊を中心に、地域向け広報誌の発行やインスタグラム等のSNS発信を精力的に行う。



地域向け広報誌

・イベント開催

草刈り等の棚田保全活動や田植え、収穫祭のほか、棚田deCAMPや生き物観察イベントなどを開催し、関係人口の増加を図る。



収穫祭



棚田deCAMP

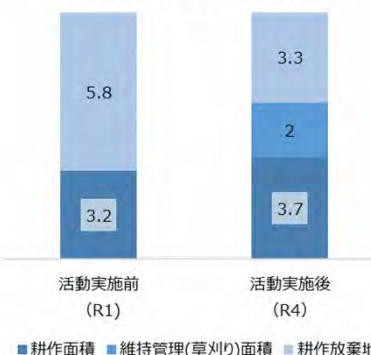
取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

土地利用

・耕作放棄地が半減

協議会と水稻耕作者1名により耕作・維持管理されている面積は5.7haになり、耕作放棄地が半減した。また、R2年度から自然栽培（無農薬無施肥）で試験的に米作りを開始し、R4年度には約0.4ヘクタールで900kgの米を収穫した。水田の再利用への可能性が見えたため、さらに自然栽培の拡大を進める。

作付面積の変化(単位: ha)



再生した棚田

活かづくり

・保全活動参加者の増加

活動の定着、SNS等による広報、メディアの紹介等により、棚田作業参加者が増加。

棚田作業参加者数(単位: 人)



棚田サポーターズと稲刈り

・地域活動の継承

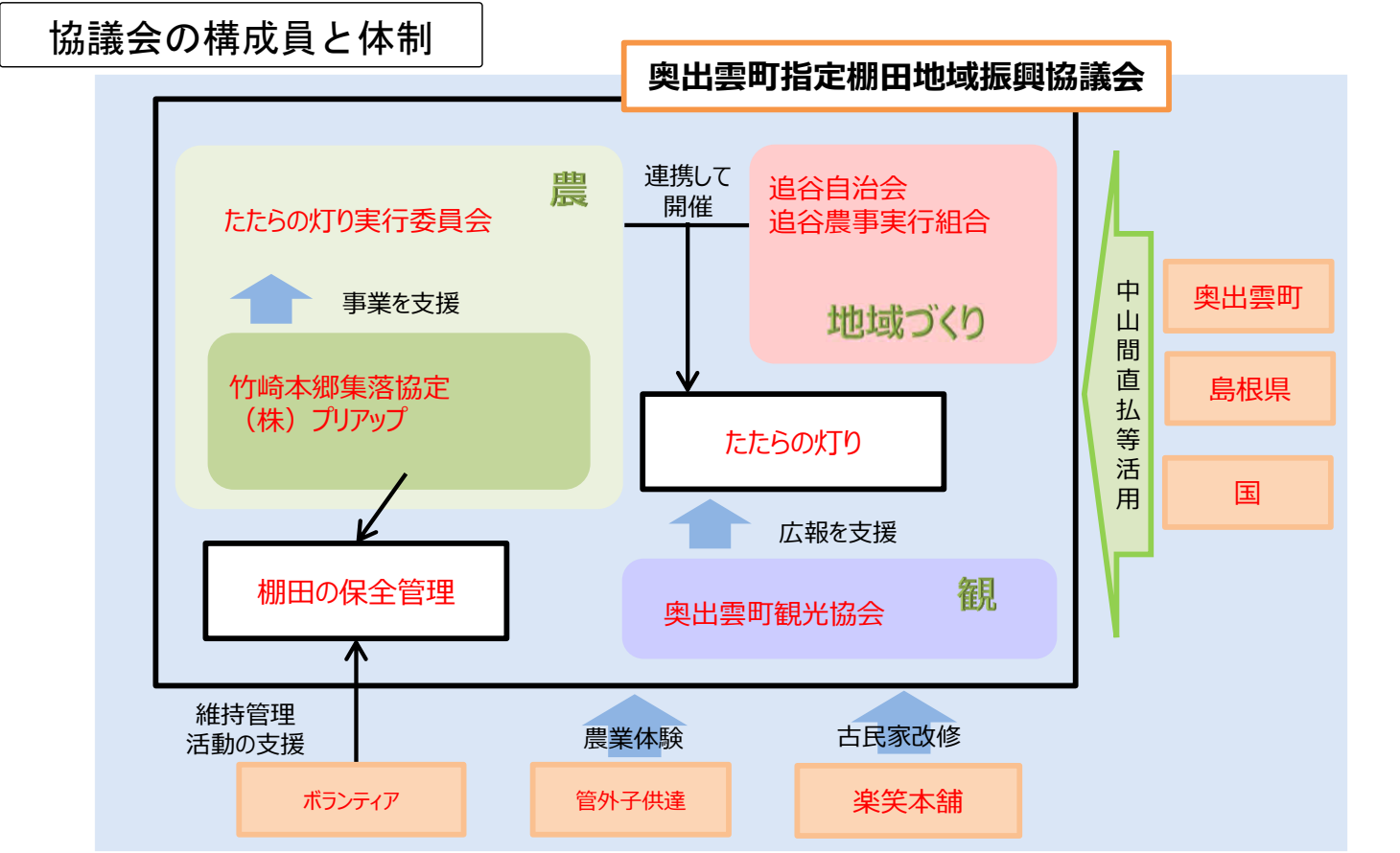
高齢化などにより維持管理が困難となっていた農業用水路の維持管理を水利組合から継承。

○棚田オーナー制度から参加型イベント、クラウドファンディングまで、新たなチャレンジを継続し、棚田ファン獲得と安定した棚田保全活動を実現。

基本情報



- 棚田の名称 : 追谷の棚田
- 面積 : 63ha
- 指定棚田地域 : 旧鳥上村
- 認定・表彰実績 :
日本農業遺産認定、
世界農業遺産(申請中)、
国の重要文化的景観認定、
ディスカバー農山漁村の宝



活用した関係省庁の事業

- 活用した事業名
 - ・ コミュニティ助成事業
 - ・ 棚田基金
- 活用のポイント
 - ・ イベント用備品の整備、棚田展望デッキの改修



コンシェルジュの活用状況

- 協議会からコンシェルジュに相談したこと
特になし

取組前の地域の状況

農業者の減少・高齢化が進行

高齢化・担い手不足による農業社の減少が深刻な状況であり、耕作放棄された棚田が地域内でも目立っている状況であった。また、狭小な区画なため機械化が困難で、農作業に多大な労力が必要であった。



耕作放棄

棚田米は、生産量が少ない上に、販路も確立しておらず、安定した収入に繋がらなかった。



棚田地域振興活動計画に基づく

取組内容

しごとづくり

・農業機械導入による効率化

農業用ドローン・フォークリフト導入による作業負担の軽減、ローダーの導入により豪雪地帯の除雪作業を一体的に進める。

・棚田米のブランド化

棚田米「源流にた米」のインターネット販売、春・秋の農業体験等の実施により、知名度の向上、販売量の増加を目指す。



活力づくり

・イベントの実施

棚田の景観を生かした、棚田ライトアップ事業「たたらの灯り」を開催、また任意組織（楽笑本舗）と古民家改修を行うことにより農泊を実施し、“ひと”を呼び込む。



取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

しごとづくり

作業時間の短縮又は棚田米の生産量の増加

現在は、自走草刈機による作業負担の軽減に努め、耕作放棄を含めた農地管理に努めている。「棚田のライトアップ事業」により、棚田（農地）の維持・管理を再認識させ、耕作放棄面積が減少した。また、地域全体で取り組むことにより、インターネットによる「棚田米」の販売、おにぎり専門店への販売により販路拡大を図っている。本年度導入の農業用ドローン、フォークリフト導入により作業効率の一層の向上と農作業の負担軽減を図る。

活力づくり

イベント参加者の増加

コロナ禍により、イベントを2年間中止し、この雰囲気を開くため、打ち上げ花火により楽しんでいただいている。秋の当地域は、夜空も星で埋め尽くされ非常に綺麗であり、今後はイベントを再開し町内外の人を呼び込み「追谷」の自然豊かな場所の知名度アップに繋げる。併せて、地域住民の意識改革を図り「たたらの灯り」「農地管理」を一部の人ではなく、住民一体となった取り組みとする。

○県下最高峰後山の麓にあり、広大な茅場を有する集落で共同活動により棚田とともに茅文化を次世代に継承。

基本情報

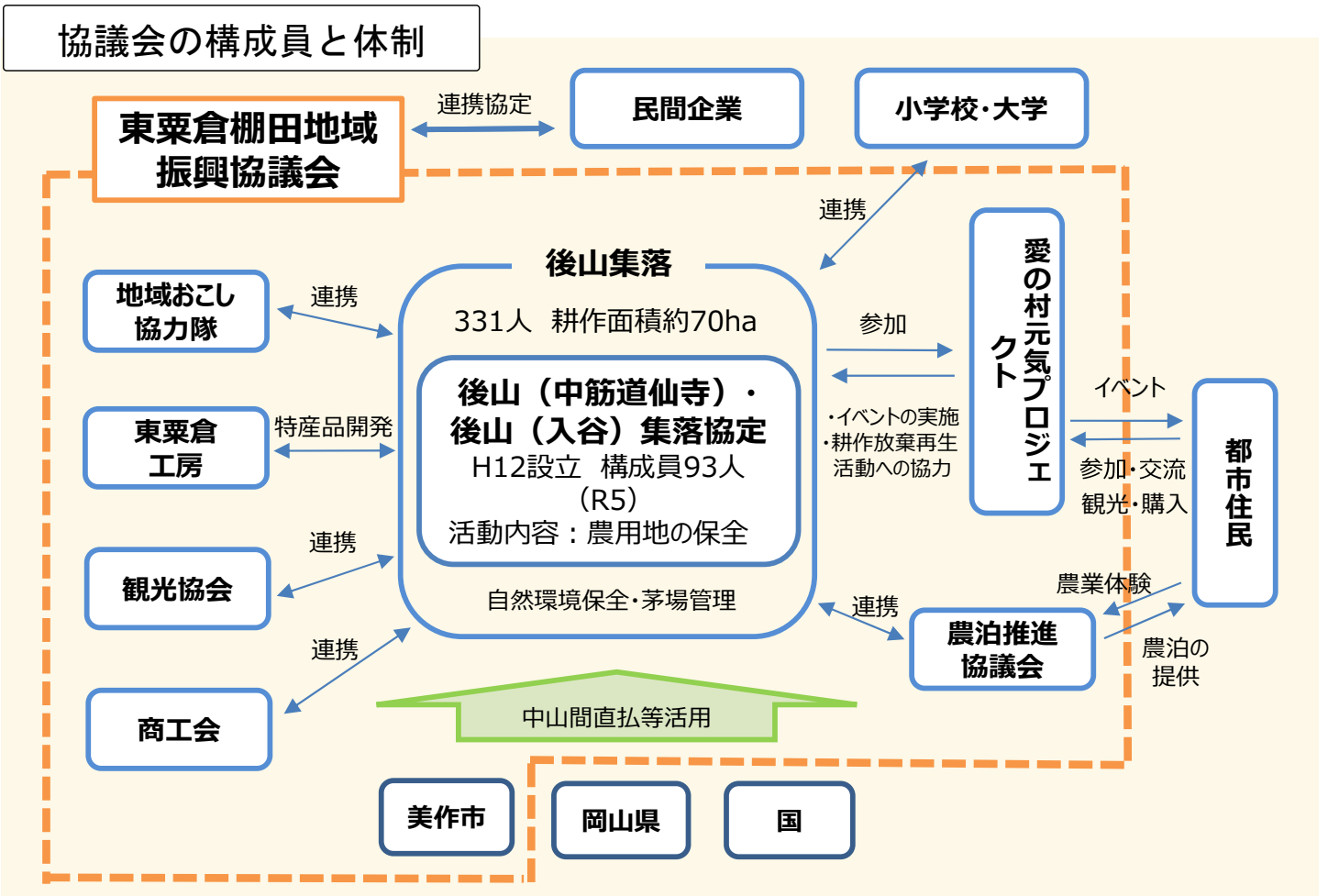


岡山県美作市

- 棚田の名称 : 東栗倉棚田
- 面積 : 119.8ha
- 指定棚田地域 : 旧東栗倉村
- 認定・表彰実績 : 文化庁認定ふるさと文化財の森「日名倉山茅場」



茅場



活用した関係省庁の事業

- 中山間地域等直接支払交付金
- 多面的機能支払交付金

コンシェルジュの活用状況

- 協議会からコンシェルジュに相談したこと 特になし

取組前の地域の状況

農業者の減少・高齢化が進行

本地域は人口減少（2011年428人→2021年331人）や高齢化（2021年高齢化率47.1%）により過疎高齢化が顕著な地域であり、農用地の維持が懸念されていた。



茅場管理の衰退

集落内にある日名倉山には広大な茅場があり文化庁から「ふるさと文化財の森」認定を受けているが、過疎高齢化により管理する人材の不足が懸念されていた。



棚田地域振興活動計画に基づく

取組内容

土地利用

・茅場管理の活性化、遊休農地の解消

地域住民総出による茅刈りや茅焼き等を行い茅場管理を活性化。中山間直払棚田加算を活用した耕作放棄地の解消や自然環境の保全を実施。



活気づくり

・民間企業との連携

農作業用品メーカーと協議会が連携協定を締結。傾斜地作業の多い棚田や茅場等の保全を持続的に行うため、安全な農作業環境の整備に連携して取り組む。

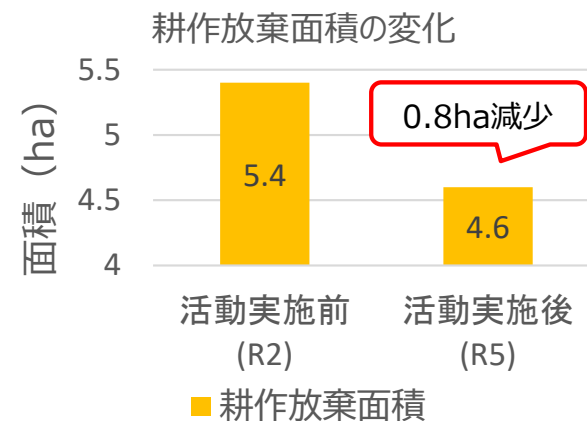


取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

土地利用

耕作放棄地が減少

耕作放棄された棚田を復旧し、耕作放棄面積が減少



土地利用

活気づくり

茅文化の継承

衰退していた茅場管理が活性化したことにより、良好な景観の再生と持続的な茅文化の継承を実現。採取した茅は文化財をはじめとした屋根の茅葺材として全国からの需要に対応。棚田法の活用により多様な主体との連携や共同活動が活性化し、棚田や自然環境の保全に取り組む推進力を発揮。




○高齢化が進む小さな集落が『棚田』を通して地域内の交流を活性化。木与なぎさ米の販売や田植え体験等を通して、地区外との交流活動にも取り組む。

基本情報

阿武町

山口県



- 棚田の名称 : 木与の棚田
- 面積 : 5.3ha
- 主傾斜 : 1/7.8
- 棚田の枚数 : 38枚
- 指定棚田地域 : 旧奈古町
- 認定・表彰実績 :
 - * つなぐ棚田遺産認定
 - * やまぐち棚田20選

木与なぎさファームの取組

消費者

木与なぎさ米

田植え体験等イベントの実施

木与集落

農事組合法人 木与なぎさファーム
H23 設立

支援

コンシェルジュ 国

阿武町

山口県

スローガン

地域の活力づくり

中山間直払・多面的支払等補助金の活用

農業を通してコミュニケーションを増やし
組合員の心を豊かにすること

木与なぎさファームの歴史

江戸時代 伊能忠敬の全国測量の際に、取水口・水路・排水口等の測量と設計が行われ、豊かな棚田となったと言われている。

平成9年 国営農地再編整備事業により狭小で効率の悪い集落内の棚田のほ場整備が行われた。

平成22年 木与集落の明日の農業を考える会を立ち上げた。

平成23年 農事組合法人木与なぎさファーム設立。

活用した関係省庁の事業と効果

① 平成12年 中山間地域等直接支払交付金
平成27年から超急傾斜農地保全管理加算

② 平成24年 多面的機能支払交付金

活用

→ 集落一体となった農業生産活動により、集落の農地保全
集落内にビオトープを設置し、鯉の放流、花壇の整備等、
集落内の美化、環境保全に取り組んだ。

取組前の地域の状況

・地区農家の大部分が兼業農家であり高齢化が進んでいる。

→「法面あぜ焼き」や「水路・道路の維持管理」にそれぞれ責任者を置き、地区農家20人が協力して、木与の棚田の保全活動を実施。



【集落での農地・道路・水路清掃活動】

・高齢化が更に加速し、集落全体の人口が減少していく事への懸念がある。



棚田地域振興活動計画に基づいた 取組①

しごとづくり

【木与なぎさ米（ひのひかり）】

平成25年度より気候・風土に応じて独自の農法で地域性（日本海の海水）を生かしたミネラルブランド米の生産に取り組む。海水に含まれるミネラルが稲の生育を良くし、美味しいお米として人気となる。



【「木与なぎさ米」農地への海水散布】



【ミネラルたっぷり「木与なぎさ米」販売】

棚田地域振興活動計画に基づいた 取組②

しごとづくり

【棚田を核としたイベント】

令和3年度に「道の駅阿武町」に隣接してABUキャンプフィールドがオープン。キャンプ場の利用者は町内アクティビティの1つとして、
「[木与の棚田で田植え体験](#)」が出来る。
(事前に予約が必要)



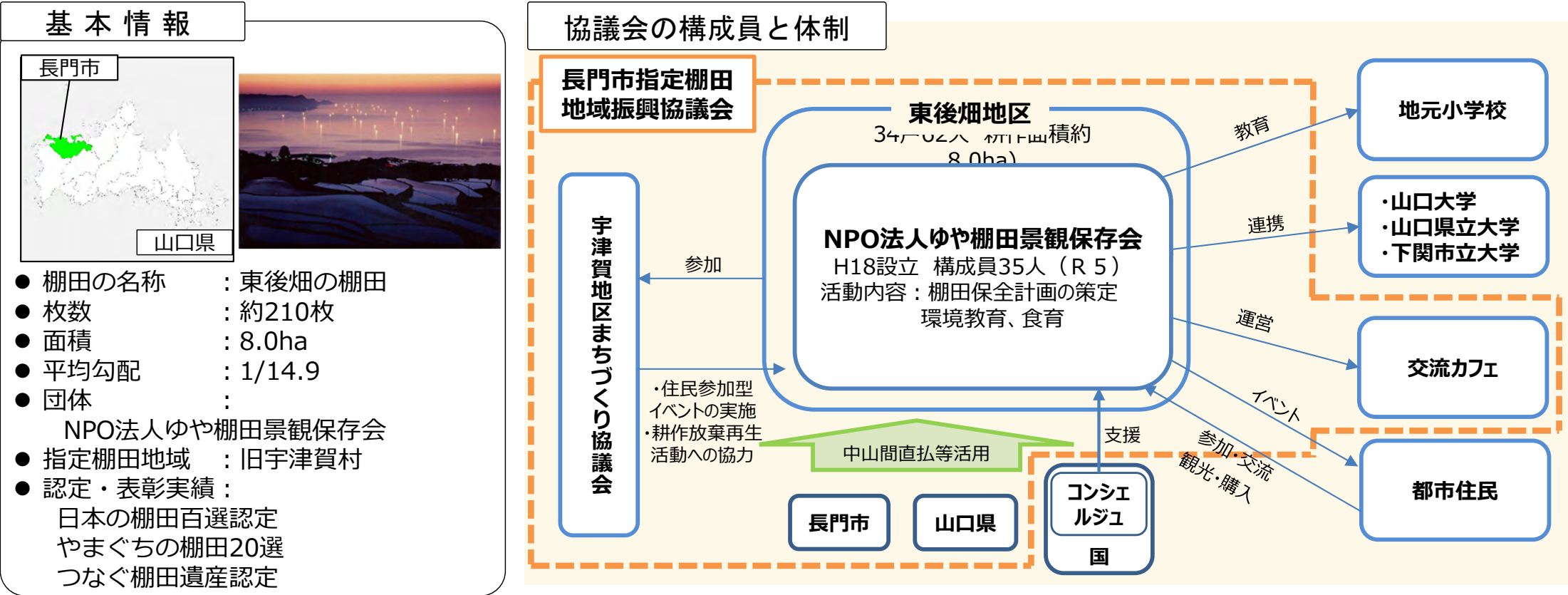
【棚田での田植え体験】

現在の地域の状況

棚田地域振興活動加算 令和2年～令和6年（今年4年目）

・地域での高齢化は進行しているが、活動計画として“棚田保全の維持”があげられており、現在棚田は状態良く保全されている。

○集落内にある廃校を拠点に、棚田景観の保全活動や棚田の景観を活用した交流活動の推進など、都市住民との交流活動に取り組む。



取組前の地域の状況

高齢化の進行

地域の高齢化が著しく地域活動の維持・継続が困難となりつつある。
(高齢化率 H17年：31.6%
→H27年：39.7%)



担い手不足・耕作放棄地が増加

担い手不足、人口減少で耕作放棄地が増加し、農業産出額も減少。(農業産出額：H17年：646千万円→H27年：616千万円)



棚田地域振興活動計画に基づく 取組内容

中山間地農業ルネッサンス推進事業

しごとづくり

製粉機による米粉の新たな商品開発

棚田米で生成された米粉を使用して新たな商品の開発・販売により、地域経済の好循環化を図ることで地域活性化につなげる。



導入した製粉機



棚田米のビスコッティ

活力づくり

棚田地域プロモーション動画の制作

棚田地域プロモーション動画等の制作により、魅力ある棚田地域を広くPRし、関係人口の拡大を図る。



取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

しごとづくり

米粉の販売量の増加

棚田米を活用した新たな棚田関連商品の開発・販売により、棚田米の高付加価値化及び棚田地域を活性化

<棚田米を使った米粉の販売量>



活力づくり

関係人口の拡大

棚田地域プロモーション動画の制作及びそれらを活用した周知活動の取組により、関係人口が拡大

<関係人口（人数）>

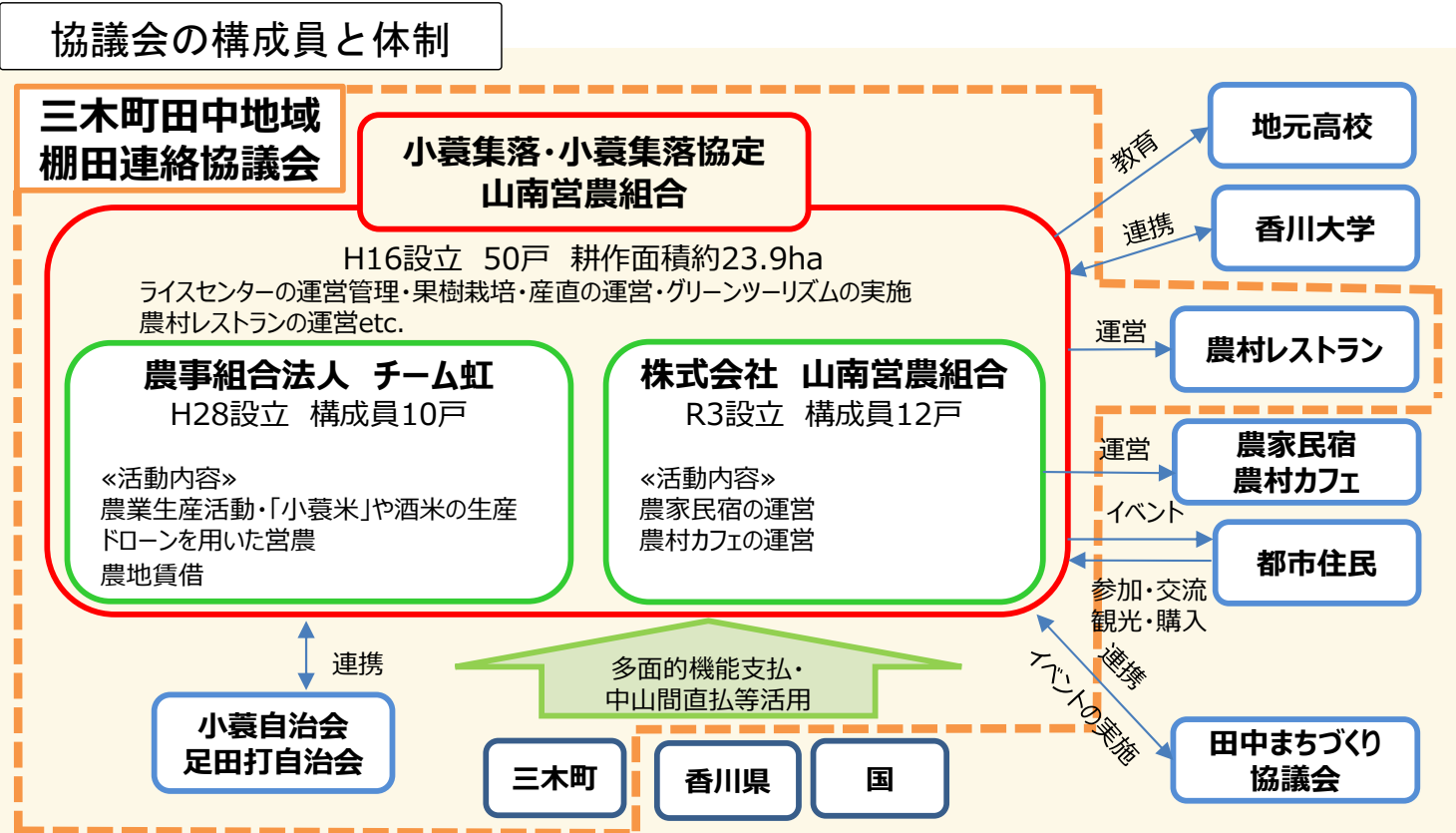


〇限界集落の未来を守るために、全員参加型営農組合を設立し、各々が得意な分野を活かして、地域活性化に取り組む。

基本情報



- 棚田の名称 : 小蓑の棚田
- 面積 : 13.9ha
- 指定棚田地域 : 旧田中村
- 認定・表彰実績 :
 - 農林水産省「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」奨励賞
 - 農業農村整備事業広報大賞
 - つなぐ棚田遺産認定
 - さぬきの棚田アワード



- 活用した関係省庁の事業
- 中山間ふるさと・水と土保全推進事業
 - 多面的機能支払交付金制度
 - 中山間直接支払制度

コンシェルジュの活用状況

● 小蓑の棚田が「つなぐ棚田遺産」に認定されたことから、中国四国農政局香川県拠点と地域振興に関する課題等について意見交換会を開催（R4.6）。

意見交換会開催以降、イベント開催の案内や活動状況を連絡。収穫祭や田植えの際には活動取材いただき、香川県拠点フォトレポートのコーナーで紹介いただいている。

取組前の地域の状況

過疎化・高齢化の進行

人口減少・高齢化に伴い、地域の農業が衰退する深刻な状況。担い手の確保や地域活性化への取組みが求められた。



農業を取り巻く課題対策

農産物価格の低迷や担い手の高齢化、高付加価値農業の推進や近代化農業への転換などの課題に取り組むために営農組合を組織。



棚田地域振興活動計画に基づく

取組内容

土地利用

・棚田の保全

棚田を保全するために新しい担い手となる組合員を令和6年度までに5名増加させる。また、スマート農業の取組みを推進するために令和6年度までに防除用ドローン1台を導入し、防除を6ha実施する。

しごとづくり

・農産物の供給の促進

棚田米である「小蓑米」のブランド化を推進し、インターネットでの販売にも取り組み、販売金額を向上させる。山間地特有の昼夜の気温差と良質な渓谷水を活かし、地元エコファーマーが高品質で安全安心な棚田米を栽培する。

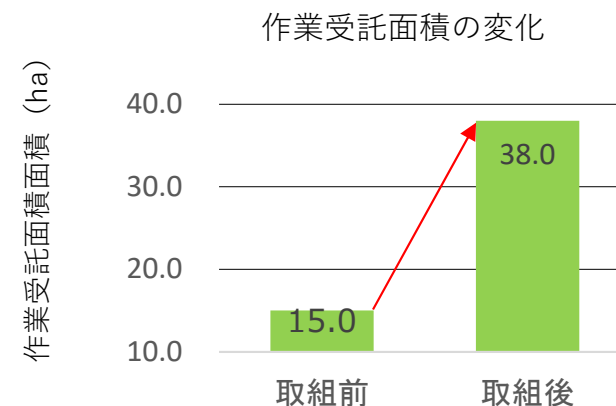


取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

土地利用

作業受託面積が増加

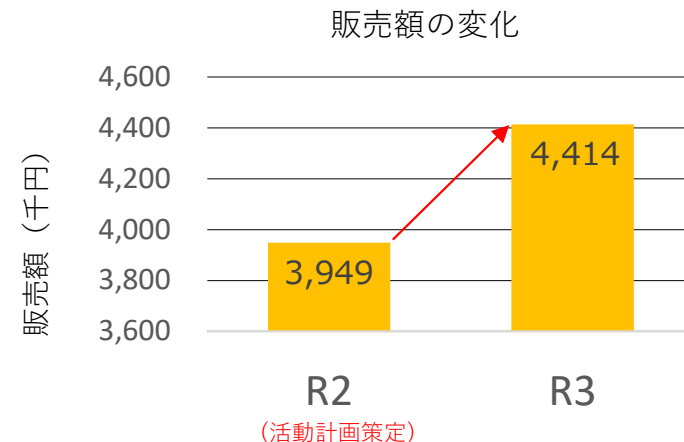
取組みの結果、地域内の棚田を始め、地域外からの作業受託も受けており、組合が請け負う作業受託の面積が増加。



しごとづくり

販売促進

販売促進に取り組んだ結果、棚田米の販売金額が増加となった。



31 棚田法活用で地域の自然・棚田の原風景を将来につなぐ

【吉延の棚田・高知県本山町】

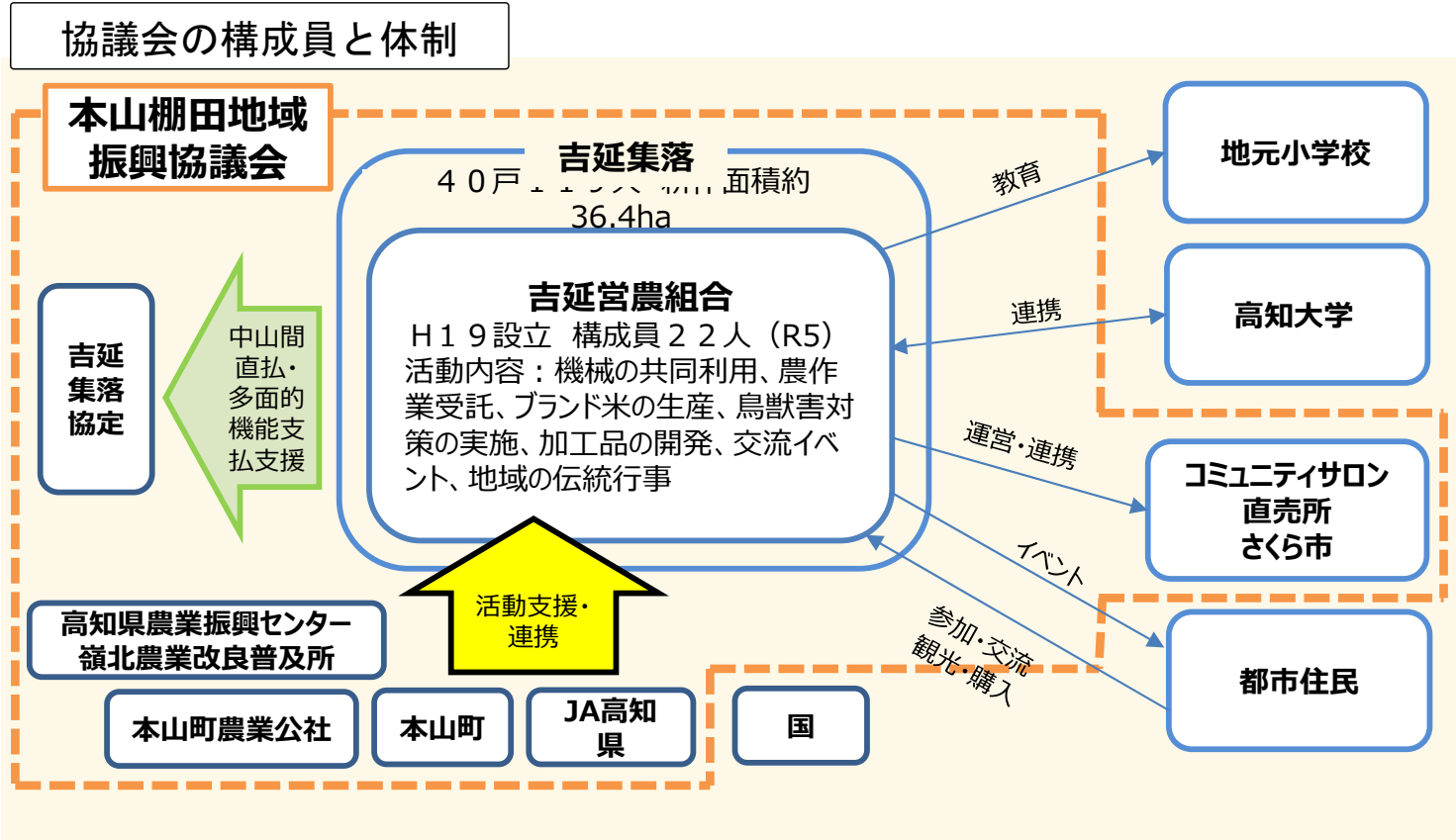
○農業用機械の整備・共同化、スマート農業設備等を計画的に導入することにより、生産性、付加価値の向上。棚田を観光資源とした交流人口の拡大。

基本情報



高知県
本山町

- 棚田の名称 : 吉延の棚田
- 面積 : 36.4ha
- 指定棚田地域 : 旧本山村
- 認定・表彰実績 :
 - ・多面的機能発揮促進事業のうち中山間地域等直接支払部門
中国四国農政局長表彰 最優秀賞
 - ・農林水産祭むらづくり部門
「農林水産大臣賞」受賞
 - ・ディスカバー農山漁村(むら)の宝
 - ・つなぐ棚田遺産の認定
 - ・環境王国認定



活用した関係省庁の事業

- 高知県中山間地域デジタル化支援事業
- 活用のポイント
高齢化による担い手不足で農地の荒廃や農業施設の維持が心配されている。本事業を活用して、用水路や水田の管理を遠隔操作及び監視できる装置を導入することにより水田管理の簡素化を図り、少人数で維持可能な体制を構築する。

コンシェルジュの活用状況

令和3年11月

ディスカバー農山漁村の宝（第8回）
[全国選定：吉延宮農組合]応募の働きかけ

令和3年3月

農林水産祭むらづくり部門受賞団体
[農林水産大臣賞：吉延宮農組合]現地訪問及び意見交換

取組前の地域の状況

農業者の減少・高齢化が進行

吉延棚田は、室町時代から開墾が始まり、三本の水路の開設により現在の状況に至った。しかし、過疎と高齢化により人手が不足し始め、山の頂上付近より、徐々に耕作困難となり始めた。そうした中、営農組合を組織し、優良農地の線引き等を行い、残された農地を将来にわたり、持続的に営農管理できる体制を整えつつある。しかしながら、集落のほとんどが急峻な棚田であり、手作業に係る労力が大きいことが課題である。



棚田地域振興活動計画に基づく

取組内容

活力づくり

・棚田を観光資源にした地域振興

棚田アート、稲刈り体験交流、棚田コンサート等イベントによる交流人口の拡大やイベント等と連携した農作物の販売。



・集落機能の強化

棚田散策・棚田見学の休憩所や地域住民の憩いの場を提供するためコミュニティサロン・直売所を開設。



しごとづくり

・スマート農業の取り組み

ドローンや水田センサー、水路センサー、遠隔操作可能な水門ゲートの活用による生産性、付加価値の向上を図る。
捕獲センサーによる、鳥獣害対策実施。



取組後（取組が棚田地域にもたらした効果）

活力づくり

・新規就農者2名の確保

体験型交流により、地域の活力の向上。農業に対する意欲も向上し、新規就農者が増加。耕作面積の増加に繋がった。



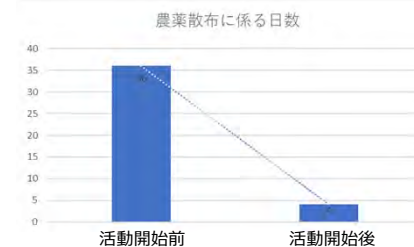
・集落機能の強化

棚田散策・棚田見学の休憩所や地域住民の憩いの場を提供するためコミュニティサロン・直売所を1か所開設。9月から始動。

しごとづくり

・作業の省力化を図り、人手不足の解消とコスト削減

集落のほとんどが急峻な棚田であり、特に動力噴霧器等で行う防除作業は労力も大きいためドローンによる農薬散布により効率化を図った。また、ドローンオペレーター講習を新たに4名が受講。



水田センサー、水路センサー、遠隔操作可能な水門ゲートの活用による生産性、付加価値の向上を図る。
捕獲センサーによる、鳥獣害対策実施。